

誰もが分かりやすい




チラシ等
作成者必見!

色の使い方の ポイントを紹介します



一般の見え方




浸水被害想定図

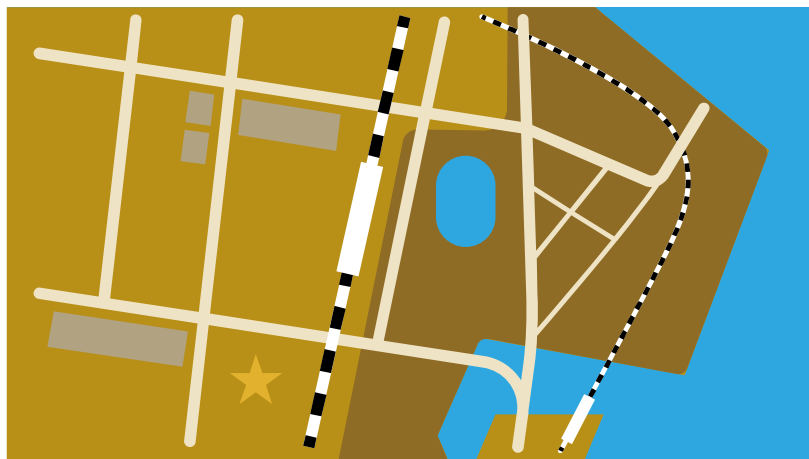
凡例	
	危険
	安全
	避難所



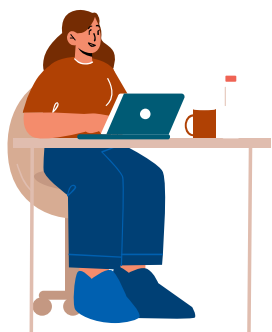
色弱のシミュレーション

浸水被害想定図

凡例	
	危険
	安全
	避難所



※ イラストはイメージ図です。実際の浸水想定は反映されていません。



相手の立場になって考えるために
色の見え方のチェックに活用してください



港区



×

学校法人 慈恵大学



カラーユニバーサルデザインとは

色覚(色の感じ方)は、味覚や嗅覚と同じように人それぞれ違い、異なる色が同じように見えたり、同じ系統の色が異なって見える人もいます。このため、見えている色と会話や文章に出てくる色名が一致せず、コミュニケーションがうまく取れずに困っている人がいます。

カラーユニバーサルデザインは、2色以上の色を使うときや、写真などの上に文字をのせるときに、できるだけ多くの人が見分けることができる色を使い、その上で、形や塗り分けなどを併用することで、「読めない」、「使いづらい」といった状態を解消し、できるだけ多くの人に情報が正確に伝わるよう配慮する取組です。

多様な色の感じ方

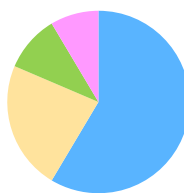
日本人男性の約20人に1人、女性の約500人に1人は、一部の色の感じ方が多くの人と異なります。これらの人は人数が少ないため、色覚障害(いわゆる色弱)と呼ばれています。

カラーユニバーサルデザイン3つのポイント

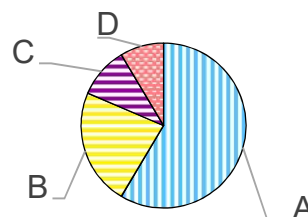
1 色を見分けにくい人にも 情報が伝わるようにする

- ・ グラフや地図など、塗り分けする場合には、色だけでなく、横線や斜め線などのハッチング(模様)を付ける
- ・ 境界線や輪郭を付け、より明確に表現する

改善前



改善後



2 できるだけ多くの人が見分けやすい配色を選ぶ

- ・ 背景の色と文字の色に明暗の差をつける
- ・ 彩度の低い(パステル調)色同士を選ばない
- ・ 白黒でコピーしても内容が識別できるか確認する

改善前



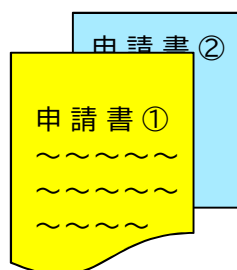
改善後



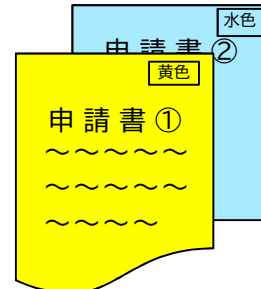
3 色の識別の違いを意識し 印刷物等には色名を記載する

- ・ 色の名前を用いて案内する場合には、印刷物等に、文字で色名を記載する

改善前



改善後



問合せ先

港区 保健福祉支援部 障害者福祉課
〒105-8511 港区芝公園1-5-25
TEL:03-3578-2386 FAX:03-3578-2678
E-mail:minato43@city.minato.tokyo.jp

港区カラーバリアフリーガイドライン

詳しい内容は「港区カラーバリアフリーガイドライン」をご確認ください。……▶

